「スポーツを通じた元気な長野県づくり」の実現に向けて

令和10年（2028年）の第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会は、長野県にとって50年ぶりの開催となる大会です。

県準備（実行）委員会として、この大会を成功に導くことはもちろんのこと、大会に関わる全ての人が、信州の山脈のようにつらなり、手を取り合って、未来へとつながる大会とすることを目指します。

大会を決して一過性のイベントに終わらせることなく、その後の長野県の発展につなげていくことが重要であり、県民がスポーツに参加できる文化の創造や地域の魅力発信による経済の活性化などを通した「スポーツを通じた元気な長野県づくり」の実現に向け、オール信州の体制で取り組んでいきます。

第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会
長野県準備委員会事務局

第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会

開催基本構想

（概要版）

行こう。それぞれの頂へ。

2028

長野県PRキャラクター
「アルクマ」
©長野県アルクマ

信州やまなみ国スポ・全障スポ

第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会

基本方針

第82回国民スポーツ大会及び第27回全国障害者スポーツ大会は、全ての県民の元気と力を結集して、夢、勇気、感動などスポーツの持つ限りない力と、本県の多彩な魅力を発信する大会として開催します。

大会の開催に当たっては、大会運営の簡素化・効率化を図るとともに、大会終了後を見据え、より多くの県民が各々の関心や適性等に応じて「する」「みる」「ささえる」など様々な形でスポーツに参加できる文化の創造と、地域の魅力発信による経済の活性化等を通じて、「スポーツを通じた元気な長野県づくり」の実現を目指します。

実施目標とその実現に向けた取組の方向

1 スポーツで長野県を元気にする大会

人生100年時代と言われる今、スポーツを健康に活かした取組を推進し、スポーツを通じた“健康長寿世界一の信州”の実現を目指すとともに、観光資源とスポーツ資源を融合させた地域活性化等にも取り組み、元気な長野県を推進する大会とします。

- スポーツによる健康長寿世界一信州の実現
- スポーツが旅の目的となる観光地・地域づくり

2 スポーツの振興を支える好循環を創出する大会

長野県の地で選手が育ち、その選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、将来にわたり本県のスポーツ振興を支える好循環の形成に努めるとともに、子どもたちが夢や希望を未来へとつなぐことができる大会とします。

- 地域で育む未来のアスリート
- アスリートの人材確保
- 障がい者スポーツ選手の発掘及び育成
- スポーツを支える人材の育成

3 スポーツで共生社会づくりを加速する大会

障がい者の社会参加の推進と社会の障がい理解を促進するとともに、障がいの有無にかかわらず、スポーツを通じた交流を拡大するなど、誰にでも「居場所」と「出番」があり、多様性を尊重する共生社会づくりを力強く後押しする大会とします。

- 国スポ・全障スポの一体的な開催
- 障がい者スポーツと一般スポーツの融合の推進
- スポーツで多様性を尊重する共生社会づくり

4 スポーツの環境づくりを推進する大会

少子高齢化社会を迎え、地域ごとに求められるスポーツ施設に対する需要が変化していく中にあって、将来にわたり安全で、適正なスポーツ施設環境を提供するとともに、誰もが生涯を通じて気軽にスポーツに親しめる環境づくりを推進する大会とします。

- いつでも・どこでもスポーツに取り組める環境づくり
- 開催地実施競技種目の普及

5 スポーツが長野県のファンを増やす大会

豊かな自然環境、美しい景観など数々の長野県の誇れる魅力を県民一人ひとりが見つめ直し、県内外に発信するとともに、全国から訪れる数多くの来県者を温かいおもてなしの心で迎え、一人でも多くの方に長野県のファンとなっていただける大会とします。

- 県民参加のおもてなし
- 大会を通じた長野県の魅力発信

取組推進に当たっての共通視点

- ＳＤＧｓを意識した取組の推進
- 信州の強みや地域の個性の活用
- ゼロカーボンの推進
- 長野冬季オリンピック・パラリンピックのレガシーを活かし未来へつなぐ大会
- 大会運営のＤＸ
- 公正さや多様性・包摂性を踏まえた取組の推進
- 安全・安心・持続可能な大会運営